
ポスター & デモセッション 原稿サンプル

小野 妹子¹, 蘇我 入鹿¹, John Sample²

Imoko Onono¹, Iruka Sogano¹, John Sample²

¹ 堀口大学大学院 理工学研究科 計算機科学専攻,

² ウイス電機コンピュータサイエンス研究所

1 はじめに

これはポスター & デモセッション用原稿のサンプルファイルである。ポスターセッションでは本サンプルファイルの型式で、2 ページのカメラレディ原稿の提出が必要である。また、デモセッションにおけるカメラレディ原稿提出は任意であるが、原稿提出の有無にかかわらず、300 文字程度の要約の提出が必要である。提出時期・提出フォーマット及び提出先については、www.wiss.org に掲載されるので適宜チェックされたい。

2 論文執筆について

2.1 全般的な注意事項

このスタイルクラスを利用するために、`jst11.sty` と `jst-wiss-pos.sty` をコンパイラが参照できるパスに置く。通常は \TeX 文書ファイルと同じディレクトリに置けば自動的に参照される。また \TeX 文書の先頭にある `\documentstyle` で `jst-wiss-pos` を指定する。

論文の文体は「だ」「である」調、句読点は「，」「，」「，」を強く推奨する。図のレイアウトなどの特別な場合を除いて本文の段組はしない。カメラレディ原稿は A4 サイズの用紙に片面プリント し、上下左右のマージンは厳守しなければならない。また、ページ割付の都合上、ページ数は必ず 2 ページ でなければならない。

Overfull (規定の枠内からはみ出して文字を書くこと) してはならない。例えば本文中や参考文献で長い URL などを書き入れると、`http://www.sample.abcd.ef/ghijk/lmn/op.htm` のように Overfull が発生することがある。必ず仕上がりを確認し、このようなことが起きないように文章を調整する。はみ出した部分については編集者において削除することがある。

2.2 表題，著者名，概要

和文タイトルを `\title{}` に書く。和文による著者名は `\author{}` の中に書く。著者の英文綴りは `\eauthor{}` の中に、和文所属は `\aff{}` に書く。なお、ページ番号は編集者によって書き込まれる。

2.3 本文

`\section{}`，`\subsection{}` などを用い、通常の \LaTeX 文書執筆の要領で書く。

なお、カメラレディ原稿は提出したものがそのまま印刷、出版されるので、十分な画質があるように著者において出力すること。なお、写真などもすべて原稿中に組み込んで出力すること。

2.4 謝辞，参考文献

謝辞は必要な場合にだけ書く．

参考文献は文末の例のように著者名，論文名，所収冊子名（英文の場合には斜体），ページ番号，発行年の順で書く．英文で著者名を書く場合には，名（first name）のイニシャル，姓（last name）の順に書く．共著者が多い場合には「et al.」で省略してもよい．参考文献は正確に書くこと．参考文献に URL を指定する場合には，そのページが存在していることを投稿前に必ずもう一度確認すること．本論文集は出版物になるので，ニュース記事のように短い期間で URL が変更されたりページ自体が消滅する恐れのある Web ページは参考文献として好ましくない．

3 論文作成の例

`\section{論文作成の例}` と書くと上のように表示される．

3.1 図表挿入の例

`\subsection{図表挿入の例}` と書くと上のように表示される．

3.1.1 表の例

`\subsubsection{表の例}` と書くと上のように表示される．表 1 は表の例である．

表 1. 食欲を満たす方法と特徴.

	値段	スピード	味
高級料亭	高い	遅い	旨いとは限らない
ファミリーレストラン	中ぐらい	中ぐらい	メニューしだい
ファーストフード	安い	早い	大はずれはない

4 まとめ

本スタイルシートが著者諸氏の論文作成に役立つことを期待する．

謝辞

謝辞があればこの章に書く．特になければ「謝辞」の章はなくてもよい．

参考文献

- [1] WISS ホームページ, <http://www.wiss.org>
- [2] H. Aoki, B. Schiele and A. Pentland. Realtime Personal Positioning System for Wearable Computers. In *Proceedings of International Symposium on Wearable Computers (ISWC '99)*, pp. 37-43, 1999.
- [3] 厩本 純一．まえがき：WISS2000 について．インタラクティブシステムとソフトウェア VIII．pp. i-ii. 近代科学社．2000